

11月12日にLydianで開催するレクチャーライブの内容が固まったので、今回のメルマガではこちらの詳しい内容を紹介させて頂くことにしました。7月末にフィリップ・ストレンジさんを招いて行ったレクチャー企画が大変好評で、また是非この種の企画を開催して欲しいという声をたくさん頂いていました。

今度の内容は、ずばり「ピアノのすべて」です。Lydianは素性の良いピアノと調律師、音響特性に恵まれているおかげで、ピアノの音が美しく響くという評価を頂いていて、素晴らしいピアニストを色々な編成でブッキングしています。今回、より音楽的に、そして知的にもジャズピアノを楽しんで頂けるようにレクチャー+ライブを企画しました。

1部 グランドピアノの秘密

いつもLydianのピアノを最高の状態に整えて頂いている凄腕調律師、辻秀夫さんをお招きして、グランドピアノの美しい音の秘密を徹底的に解説して頂きます。普段は見ることのないグランドピアノのアクションを引き出し、時にはピアノ内部も見ただきながら、音が出る仕組み、アップライトピアノとの違い、興味深い弦の張り方などを詳しくお伝えします。

合わせて、調律という作業では実際に何をするのか、どんなところが難しいのかもお話し頂きます。実は調律に関して一般的に思われているイメージと実際の調律はかなり違うのです。

例えばですが、調律とは以下のような内容だと漠然と思っている方も多いと思います（自分もそうでした）。

?調律という作業は狂ったピアノの弦を正しく合わせるだけの作業である
?かなり調子が狂っているピアノでも調律すれば新品に近い状態に戻る
?調律師なら誰でもほとんど同じレベルで仕事ができる

実は上の3つはすべて間違っています。辻さんのお話を聴いて頂くと、上記の正解はもちろん、ピアノの状態を整える上で、調律師が駆使しているノウハウの一端がお分かり頂けると思います。

グランドピアノのアクションを引き出した写真

<http://jazzlydian.com/lecture/action.jpg>

2部 平均律とは何か? —長い時を経た妥協の産物—

ここでは、紀元前のピタゴラスの実験に始まった美しい音の響きを求める欲求がどのように音階を形作って行ったか、その過程で数学的整合性と演奏における矛盾に悩みながらどのように今の音階が生まれて来たかを詳しく解説します。

1500年頃からヨーロッパではコード楽器の主演としてチェンバロ(ピアノの前身)が生まれた時から、音律は鍵盤楽器と切っても切れない関係になりました。ギターなどと違って鍵盤楽器は、適切と思われる音律に予め調律しておく必要があるためです。

数学的に美しいはずであり、経験的にも(ある意味では)完璧とも思えたピタゴラスの音律がなぜ音楽の現場では使われないのか、その修正版として提唱された純正律などもすべて使われなくなったのはなぜか?

音楽にとってはとても重要な要素である音律が、数学的、音楽的観点からどのような議論を経て平均律に落ち着いたか、この知的好奇心を大いに刺激されるテーマを、マスター中川が分かりやすく解説します。

調和する音を探し求めたピタゴラスの実験

<http://jazzlydian.com/mailmagazinefree/images/pythagorasexperiment.png>

3部 ジャズにおけるピアノ奏法のバリエーション

ここではLydianの常連である素晴らしいピアニスト、田窪寛之さんに登場頂き、ジャズにおけるピアノの役割と、色々な編成における弾き方について解説いただきます。

ジャズバンドにおいてピアノの役割は非常に大きいものがあります。何故かという、ハーモニー（コード感）を一つの楽器で完全に表現できるのはピアノだけだからです。ギターもコード楽器なのでハーモニーを表現できますが、単音でソロを取っている間はコード感を十分に表現することはできません。

その点ピアノは一人でハーモニーもアドリブ（旋律）も表現できます。このメリットを生かした演奏法の追求がなされ、ジャズや関連分野でも発達しました。通奏低音をベーシストが弾く場合、ベーシストがいない場合など、色々な状況でピアニストはハーモニーを含めたサウンド作りを要求され、それに応えてきました。これは他の楽器にはできない事です。

今回は2つのパートに分けて解説します。

?通奏低音の表現

コードの骨格(ドとソ)を中心に弾く)ベーシストがいない編成ではピアニストがそこを弾く必要があります。その奏法にも何種類もあり、それを田窪さんにデモ演奏していただきます。

?ハーモニーを含めたメロディの奏法

通常ジャズピアノでは、左手でコード、右手でメロディやアドリブを弾くことも多いのですが、テーマメロディを弾く際にはハーモニー自体をメロディに取り込んで弾くとさらに魅力的に聞こえます。

その奏法にも幾つかあり、曲調などに応じてピアニストは選び取っています。これも田窪さんの妙技で弾いて頂き、それがリスナーの皆さんにどう違って聴こえるかを感じて頂きます。

4部 田窪寛之さんによるミニ・ソロピアノ・ライブ(45分間)

11月12日(土) 13時開店

1部~3部 レクチャー部分 13:30~16:00(途中休憩あり)

4部 田窪寛之さんによるソロピアノ・ミニライブ(45分間)

参加料 : 4,200円(税込) ドリンク別

ご予約はこちら → <https://ws.formzu.net/fgen/S29023882/>